

国語科授業案

日時 平成23年10月20日(木)

生徒 1年A組 男子19名 女子18名 計37名

授業場 1年A組教室

授業者 太田 諭

1 単元名 「ベンチ」から広げよう。 ～中心教材「ベンチ」～

単元を貫く言語活動 『あのころはフリードリヒがいた。』のあらすじを協力して書く。

関連する言語活動例 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。

2 単元の目標

「ベンチ」をきっかけとして、『あのころはフリードリヒがいた』のあらすじを協力して書くという言語活動を通して、場面の展開に注意して読み、内容をとらえることができるようにする。また、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすることができるようにする。

3 単元について

(1) 教材観

次年度から完全実施される学習指導要領改訂の趣旨の一つに、「読書の指導については、読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を内容に位置づける。」とある。また、改善の具体的事項(キ)には、「読書の指導については、自分の読書生活を振り返り、日常的な読書をより豊かなものにすることや図書・資料の検索に図書館や情報機器を効果的に利用する仕方などを内容に位置づける。」とある。このように、読書と情報活用に関わる内容がこれまで以上に重視されているのは、言語活動例からみても明らかである。

この背景には、「中学生の活字離れ」という実態があると考えられるが、日常の授業実践を考えたときに、文学的文章を用いた指導が「学校に閉じている」という反省がある。

読書が日常生活を豊かにするものであることは言うまでもなく、生徒の読書生活を豊かにすることは、広い意味での「国語力の向上」に欠かすことのできない要素であると考えられる。

本単元の中心教材「ベンチ」は、『あのころはフリードリヒがいた』の中の一章である。ナチスによるユダヤ人迫害が行われた時代を生き抜いた「フリードリヒ」の短い一生を、同年齢である「ぼく」の視点から描かれている。本作品は、その章だけを読んでもストーリーがひととおり完結していることから、内容を把握することが比較的容易である。そのうえ、「フリードリヒ」が中学生と同年代であることから、共感しやすいというメリットもある。本作品は、読書活動につなげるための教材として取り上げられている。「ベンチ」をきっかけとして、生徒は『あのころはフリードリヒがいた』に対する興味を抱くと考えられる。また、当時の特殊な時代背景に対する関心の高まりも期待できる。

(2) 生徒観

(3) 指導観

上記のことから、生徒の読書生活を豊かにすることを意図し、「ベンチから広げよう」という単元を設定した。研究の視点である「言葉のはたらきに気づくことのできる言語活動」としては、『あのころはフリードリヒがいた』のあらすじの作成を設定する。

『あのころはフリードリヒがいた』は、「ベンチ」を含む32章から成立している。「ベンチ」以外の章は、単独で展開が完結しているとは言い難い。したがって、1つの章を読むだけでは内容を理解しにくく、疑問が次々と生じると考えられる。このうち「ベンチ」を除く31章を学級の生徒が分担して書き、最終的にそれをつなげたいと考えた。

「あらすじ」を作成するためには、まずその内容を読み取らねばならない。また、生徒は自分が担当した章以外は、他者が書いた「あらすじ」を読むことでしか把握できない。これらのことから、必要感と責任感をもって「あらすじ」の作成に取り組むことを期待した。

さらに、「あらすじ」を読み、全体の流れを読み取る学習を通して、『あのころはフリードリヒがいた』の内容に対する興味・関心を高めていきたいと考えた。

4 評価規準

| 関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語に関する知識・理解 |
|---|---|---|
| ア 自らの疑問を広げながら「ベンチ」を読もうとしている。 | ア 場面の展開に注意して読み、文章の内容をとらえている。 | ア 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係を、辞書を用いて整理し、まとめている。 |
| イ 『あのころはフリードリヒがいた』の中で、自分が担当した章のあらすじを、目的意識・相手意識をもって書こうとしている。 | イ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げている。 | |

5 単元計画（全5時間）

| 時 | 学 習 事 項 | 主な学習活動・手立て | 評 価 | | |
|---|--------------------------------|---|-----|---|---|
| | | | 関 | 読 | 言 |
| 1 | ○学習の見通しを持つ。 ○「ベンチ」の展開をとらえる。 | ○単元を通しての言語活動を知り、見通しをもつ。 ○「ベンチ」から連想できるものを考える。 ○「ベンチ」を読み、感想と疑問をもつ。 ○「ベンチ」の展開をとらえ、主な登場人物の人物像についてとらえる。 | ア | ア | ア |

| | | | | | |
|---|------------------------------------|--|---|---|---|
| 2 | ○フリードリヒの行動について、当時の社会背景と関連してとらえる。 | ○ヘルガとのデートの場面におけるフリードリヒの心情をとらえる。 ○「一週間後、行かなかったフリードリヒの行動」について、当時の社会背景との関連から考える。 | ア | イ | |
| 3 | ○『あのころはフリードリヒがいた』の中の1章を読み、あらすじを書く。 | ○『あのころはフリードリヒがいた』の中の1章について、200字以内で「あらすじ」を書く。 ※書く章はくじ引きで決定することとする。 | イ | ア | ア |
| 4 | ○『あのころはフリードリヒがいた』のあらすじをつなげる。 | ○前時に書いたあらすじを、ヒントを参考にしながらつなげていく。 | イ | ア | |
| 5 | ○『あのころはフリードリヒがいた』から、関心を広げる。 | ○さらに問題意識を広げ、読みたい本について考える。 ○今後の読書計画を立てる。 | | ア | |

7 本時案（4 / 5 時間目）

(1) 本時の目標

○『あのころはフリードリヒがいた』のあらすじを読み、つながりについて考えることで、全文の展開をとらえるとともに、社会に対する問題意識を広げることができる。

(2) 本時の展開

(○…発問, △…補助発問, □…指示・説明)

| 主な学習活動 | 教師の働きかけ・ 手立て ・評価 | 備考 |
|--------------------------------------|--|----------------|
| 1 本時の学習課題を知り、見通しを持つことができる。 | □今日から『あのころはフリードリヒがいた』を全員で協力して読みたいと思います。 | |
| 「あらすじ」を読んで、展開をとらえよう。 | | |
| 2 自分なりに予想を立て、あらすじを展開に沿って並べていくことができる。 | □「では、できあがったあらすじを、順に並べていきましょう。」 | ・あらすじ配付 ・個人 |
| 3 班で、各自が並べたあらすじの順を交流することができる。 | ※できあがった「あらすじ」については、事前に生徒数分印刷し、配付しておくこと | ・机間指導 ・班 |

| | |
|----|------------|
| 1 | 生まれたころ |
| 2 | じゃがいもパンケーキ |
| 3 | 雪 |
| 4 | 祖父 |
| 5 | 金曜日の夕 |
| 6 | 入学式 |
| 7 | 学校からの帰りみち |
| 8 | とめ輪 |
| 9 | ボール |
| 10 | 階段での話 |
| 11 | シュナイダーさん |
| 12 | 裁判 |
| 13 | デパートで |
| 14 | 先生 |
| 15 | 排除婦 |
| 16 | 理由 |
| 17 | プール |
| 18 | 儀式 |
| 19 | 出会い |
| 20 | プログラム |
| 21 | 死 |
| 22 | ランプ |
| 23 | 映画 |
| 24 | ラビ |
| 25 | 星 |
| 26 | ソロモン |
| 27 | ある訪問 |
| 28 | 見上げたやつ |
| 29 | 写真 |
| 30 | 地下室で |
| 31 | 終末 |

で、生徒が内容をとらえやすくなるようにする。

※章のタイトルにある年数は示さない。

※班の中で、自分たちが担当した部分などの順番になるかを交流する。

※「ぼく」「フリードリヒ」のおよその年齢、当時の社会背景等を参考にする。

期待する行動傾向
・根拠をもとに、
どのような順番になるかを話し合っている。
深い思考

4 全体で、班が並べたあらすじの順番を交流することができる。
 全体で、順番を交流していきましょう。

5 『あのころはフリードリヒがいた』の内容に関連して、興味をもったことや、調べてみたいことをマインドマップをもちいて広げることができる。
 「この本をきっかけとして興味をもったことや、調べてみたいことは何でしょう。」

・挙手による
意見の確認

6 『あのころはフリードリヒがいた』の内容に関連して、興味をもったことや、調べてみたいことを記述することができる。
 では、その中で自分が興味をもったことを書きましょう。

7 自分がさらに調べてみたいことを発表することができる。
 「では、記述したことがらを発表してください。」